

2007年3月期第1四半期決算における主なQ&A

1. 第1四半期(4－6月期)の売上高が前四半期(1－3月期)比で減少したのはなぜか？

- A. 前四半期と比べて売上減となったのは、主に、国内携帯電話端末の生産調整によりデジタルベースバンド LSI の売上が減少したこと、DVDドライブ用 LSI でパソコン市場の減速に伴う部品調達の一時的な調整の影響を受けたことなどによるものです。期初の想定に対しても第1四半期の売上高は約40億円の売上未達となりました。

2. 営業損益は改善したのか？

- A. 第1四半期の営業損益は、58億円の損失で、前四半期と比べると107億円の改善となりました。前四半期においては、技術資産の一括処理として約90億円計上されたため、実質は17億円の改善となります。 期初の想定と比べると、売上減に伴う GP(粗利益)減により、営業損益が若干悪化しました。

3. 第2四半期(7－9月期)業績の見通しは？リスク要因はあるのか？

- A. 第2四半期の業績に関しては、期初の見込みどおり、第1四半期と比べて売上高が増加し、営業損益も改善の見通しです。これは、半導体市場動向に左右されない新規のゲーム機向け LSI の出荷が開始することに加え、マイクロコントローラやディスクリート等の市場が堅調に回復していることによるものです。一方、リスク要因としては、大型ドライバの調整長期化や民生機器の生産調整、資材費の値上げ要求などが挙げられます。

4. 第1四半期における設備投資額、減価償却費・リース料、研究開発費の実績と今年度の見通しは？

- A. 第1四半期における設備投資額は402億円、減価償却費・リース料は268億円、研究開発費は310億円でした。今年度の見通しは、期初想定どおり、設備投資額で1,000億円、減価償却費・リース料で1,220億円、研究開発費で1,200億円の計画です。

5. 第1四半期における損益計算書の雑損失、雑収益の金額が、通常よりも大きいのが、何が計上されているのか？

- B. 第1四半期の雑損失(36億円)には、アイルランド工場閉鎖や相模原の 200mm 試作ラインの閉鎖に伴うリストラ費用が20億円強計上されています。また、雑収益(43億円)の主な要因は、当社が保有する大手販売店5社の株式に退職給付信託を設定し、その設定益を計上したことによるものです。退職給付信託を設定した目的は、NECエレクトロニクスグループの年金財政の健全化と、前述のリストラ費用に対する原資を確保するためです。